★今、福祉委員は★ こんな活動をしています!!

～地域でのつながりを絶やさないために～

新型コロナウイルス感染の影響で、活動や不要不急の外出の自粛などで、これまで地域で取り組んできた「つながりづくり」や「居場所づくり」がもちにくい状況となっています。

福井市地区社協連絡協議会では、今の社会状況を踏まえ、これまでの取り組みを絶やさない、「福祉委員」の活動にスポットをあてて取材しましたのでご紹介します。

福祉委員発！「医療従事者に向けて応援メッセージ」を投影！

日之出地区社協

ここから400メートルほど離れた県立病院に向けて、青い背景にメッセージ11枚をスライドで映し出しました。

日之出地区では、５月３日～8日（7日除く）の期間、新型コロナウイルスに対応する医療従事者に感謝の気持ちとエールを送ろうと、地区内のスポーツクラブの協力の下、その建物にスライドで応援メッセージを映し出す活動を行いました。

この活動は、福祉委員の毛利茂則さんの発案で、県立病院が所在する地区だからこそ、住民として何か応援できないか、感謝の気持ちを表せないかという思いから始まり、地区社協が地区内の各種団体と共に知恵を出し合い、実現しました。

見守り活動でエンジョイホームを啓発！

酒生地区社協

今年度は福祉委員の改選期。新型コロナウイルスの影響が続く中、酒生地区社協では、福祉委員として「今、できることは何か！」を考え、高齢者が自宅で気軽にできる体操や脳トレ、小物づくりのセットを作成し、訪問時の情報提供を行うことにしました。

取材の日の５月１５日（金）に、新任の福祉委員である澤木二三枝さんが、民生児童委員やデイホーム専任職員と共に高齢者宅を訪問し、初顔合わせが実現。ステイホームがエンジョイホームになるような情報をお届けし、福祉委員活動の第一歩を踏み出しています。

第9回 地区社協の活動と取り組みを順番に紹介します

清水北地区

ボランティアの輪を広げよう！

清水北地区社協は、昭和46年に造成が始まった県下最大の住宅団地、グリーンハイツを抱える地区です。

地区社協は、平成22年に発足し、自治会連合会の協力のもと活動をスタートしました。当初は、地区社協の役員と福祉委員、民生委員児童委員の皆さんだけでは地区内を把握できないジレンマから、会長の旗振りのもと、一人でも多くのボランティアを募集し、地区社協の活動に関心を持っていただく働きかけから始めました。

その結果、地区内にボランティア団体が立ち上がり、徐々に仲間意識が生まれ、地区社協活動も浸透し始めました。

例えば、

①北地区ボランティアクラブ
主に降雪時に小学生の通学路確保

②北地区交通安全推進協議会
安全と安心できる町づくり

③北地区振興会館管理組合
各ボランティア団体が自由に活動できる場所の提供

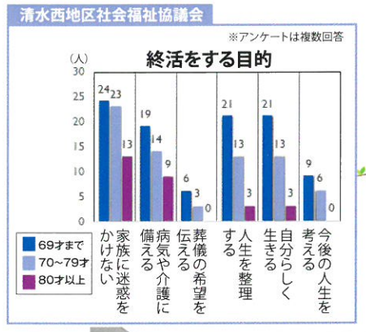
この他、児童館での流しそうめんの設営（8月）、敬老会での手打ちそば200食提供（9月）、12月に門松を製作するなど、地区社協の活動に理解と協力の輪が広がっています。

近年、急速に高齢化が進み、高齢化率は現在38％です。地区の3分の－が高齢者世帯となり、地域での支え合い活動も重要な課題になっています。これからもボランティアの輪を広げていきたいと考えています。

清水北地区社会福祉協議会
事務局　川　堺　健　一

清水西地区

終活について勉強しよう！
～自分らしく充実した人生を～



「お父さんはどんな葬式にしたいの？」とか、「お母さんが病気になったらどんな治療をしてほしい？」ひと昔前はこのような会話はタブーとされていたようです。

しかし、昨今「終活」という言葉をよく聞くようになりました。そこで清水西地区では平成30年度に合同ほがらかサロンで行政書士 青木克博氏を招いた勉強会を企画しました。

終活とは人生の最期を考えることを通じて自分の身の回りを整理し、これからの人生を豊かに自分らしく生きるための活動です。勉強会のアンケートから、参加者の一番の関心事は、上記のグラフのように将来への不安を少しでも解消したいことであるとわかりました。

それを受けて令和元年度に2回目の終活勉強会を開催しました。参加者の関心が高く、半数の人が2年続けて参加していました。財産や遺品の整理、相続の諸問題について青木先生から多くのヒントをいただきました。生前整理の「情報」は相続につながっています。残される家族が困らないよう伝えておくべきだと分かりました。

家族に迷惑をかけたくないと終活を少しずつ始めた私たちに大変役に立つ勉強会でした。「その日」は突然やって来るのです。気付いた今から始めましょう。

これからも自分の人生が豊かになるような活動をしていきたいと思います。

清水西地区社会福祉協議会
デイホーム部 部長 塚田絹枝